

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

5 番、石田史行議員、どうぞ。

○5 番（石田史行）

改めまして皆様こんにちは。5 番議員の石田史行でございます。

それでは、通告に従いまして、1 項目質問させていただきます。生涯学習の充実を問うということでございます。我が町の生涯学習事業につきましては、第五次開成町総合計画前期基本計画では、①生涯学習推進体制の整備と、②生涯学習関連施設の充実、これを目標に掲げて施策展開を進めているところでございますけれども、生涯学習講座の受講者数は平成 24 年度の 1,294 人をピークに減少傾向となり、平成 29 年度は 750 人の参加延べ人数にとどまっております。また、受講希望者が定員に満たず中止となった講座が 45 講座のうち 12 講座ありまして、前期基本計画で目標として掲げた平成 30 年度 1,100 人の達成というものはかなり厳しいと思われます。

生涯学習講座のあり方だけではなく、関連施設の整備も含めた生涯学習の充実については、現状の施策展開では限界があると考えます。

そこで以下の点を問いたいと思います。一つ目、生涯学習の充実につきまして、現時点で前期基本計画の施策展開を通じて見えてきた具体的課題というものをどう捉え、平成 31 年度からの後期基本計画にどう反映していけるのか。

2 点目、生涯学習講座の運営主体につきまして、現在、町の教育委員会が担っておりますけれども、小田原市のように町民が主体となった組織を立ち上げて運営を委託してはいかがでしょうか。

3 点目、町民センター図書室を町立図書館として開成駅前に新たに整備し、生涯学習の拠点とする考えはないでしょうか。

以上、御答弁をお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（井上義文）

では、石田議員の御質問にお答えをいたします

教育委員会が実施する生涯学習に関する講座は、学ぶことを通していきいきとした豊かな人生を送れることや、仲間とのコミュニティの和を広めていくことを目的に様々な講座を実施しております。

平成 29 年度における生涯学習講座の実績は、32 講座、延べ 73 回開催し、延べ 750 人の参加があり、前年度より参加者数は増加しております。各講座の実施にあたっては、実施場所や講師の内容により定員として上限と下限を設けており、下限に達しなかった場合は講座を中止することとしております。また、定員の問題だけでなく、屋外で実施する講座の場合、当日の天候により中止に至った例もございます。

生涯学習講座は過去の参加者の御意見をお聞きしながら、主にかいせい人材バンク登録者を講師として企画することより、教えられる側だけでなく、教える側としての活動の場を提供することにもつながっております。そのほかにもあらかじめ講座のメニューを定めておき、希望に応じて役場職員が出前講座を行う「あじさい講座」を実施しており、平成29年度には自治会や老人クラブ、母親クラブなどを対象に10講座を実施いたしました。

また、子どもたちが地域や社会等を知る機会を設け、道徳心の育成、主体的な学習意欲の向上、体力づくり等をサポートするために実施している「あじさい塾」は、平成29年度には年間12回、11講座を開催し、延べ166人の参加がございました。さらに、学校の夏休み期間中に実施したジュニアサマースクールについては、10講座を開催し、延べ294人の参加がございました。

このように、生涯学習の取り組みについては、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に様々な講座の実施を通じ、町民の学びの意欲に応えられるよう努力してまいりました。

それでは、一つ目の生涯学習の充実について、現時点で前期基本計画の施策展開を通じて見えてきた具体的課題をどう捉え、平成31年度からの後期基本計画にどう反映していくのかについてお答えいたします。

現行計画である第五次開成町総合計画前期基本計画では、「全ての人が、生涯を通じて、あらゆる機会に、あらゆる場所で、自由に学ぶことができ、その成果を生かすことができる環境を整える」ことを生涯学習の推進における基本方針として掲げ、取り組みを進めてまいりました。

これまでの取り組みを進めてきた課題といたしましては、町民の学習意欲の多様化に伴って講座メニューを多様なものにしていくことや、様々な分野の人材バンク登録者を発掘することと捉えております。これらの課題解決のためには、必要に応じて近隣市町とも連携し、生涯学習に関係する団体の情報交換や活動の場が柔軟に対応できるよう考えてまいりたいと思います。

また、役場全体で生涯学習講座と同様な講座が行われており、庁内関係課との連携により、講座を集約することなどで効果的な取り組みを進めるだけでなく、各講座の質の向上を図っていくことも考えてまいりたいと思います。

二つ目、生涯学習講座の運営主体について、現在、教育委員会が担っているが、小田原市のように町民が主体となった組織を立ち上げて運営を委託してはどうかについてお答えいたします。本町では、過去の生涯学習講座の開催状況及び講師や人材バンク登録者の要望などを総合的に勘案し、各講座の企画運営を行っております。

議員から御提案のあった小田原市では、小田原市生涯学習センター内に2012年に設立されたNPO法人小田原市生涯学習推進委員の会、愛称はNPO法人おだわらけやきの会という団体があり、小田原市と連携、協働し、学習情報の提供や学習講座の開設運営、人材バンク管理、運営などを行っております。小田原市の例のように、住民が主体となって講座が運営されることは理想ではありますが、本町に

においては生涯学習の運営全般について幅広く担う団体がなく、小田原市のような取り組みを進めるためには団体の発掘、育成が課題であろうというふうに捉えております。

また、本町の生涯学習においては、町民が身につけた知識、技能をもとに学習の場を提供し、講座を通じて学んだ町民がそれをきっかけとしてさらに深い知識等を身につけ、次に講師として活躍できるような循環型の講座を目指しているところもございます。

このような町民との協働の視点を基本とした考え方のもと、町民、地域の生涯学習活動がより一層充実できるよう支援し、行政としての役割を果たしていきたいと考えております。

三つ目の、町民センター図書室を町立図書館として開成駅前に新たに整備し、生涯学習の拠点とする考えはについてお答えいたします。

現在は、図書館利用に関する広域連携を進め、県西地域２市８町及び秦野市の図書館等をお互いに住民が相互に利用できるようになってはございます。町民の生涯学習活動をより一層推進するため、図書機能を充実させていく必要があることは課題としては認識しております。しかしながら既存施設の範囲で、できることから着実に実施してまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○５番（石田史行）

井上新教育長、今日が一般質問の初デビューということで、多少緊張されているかと思いますが大丈夫です。私も緊張しておりますので、お互いに肩の力を抜いて、かつ真摯な議論をさせていただきたいなと思いますので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

さて、前置きはそのぐらいにして、ちょっと伺って再質問をさせていただきたいと思っておりますけれども、当初、私が最初に申し上げましたように、現状が非常に生涯学習講座の受講者の数が減少傾向となっているということが厳然たる事実としてあるわけでございます。平成２９年度は前年度よりは増加したとはいえ、この開成町生涯学習講座活動の記録というものの、これは教育委員会から別途提供させていただきまして見ますと、その２８年度は確かに６７２名で、２９年度は７９１名と増えておりますけれども、では２７年度を見ますと、９８８名参加延べ人数があるわけでございます。もっとさかのぼれば先ほど申し上げたように、平成２４年度は１，０００人を超えていたというわけでございまして、この傾向につきまして、減少傾向のこの現状につきまして、もう少し要因といいますか、そういったものを教育委員会としてどう検証して分析されているのか、もう少し御説明をいただけますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（井上義文）

では、今の御質問の現実問題、数が受講者数が減っているのではないかということではありますが、数字上確かに減ってございます。原因につきましては、先ほどのように天候で中止になったということもございまして、募集人数に達しなかったなどというようなことも一つはあろうかと思えます。

ただ、根っこの部分の要因としては、何が考えられんだろうというふうに思ったときに、すみません、客観的なデータではないのですが、一つは魅力ある講座を設定できなかったのかなということも要因としては考えられます。というのが、その検証について十分なことができて、私、今持ち合わせてないので、こういう言い方をさせていますが、ということと、あともう一つは、講座に参加した方々が自立、あるいは自主的に別のサークルをつくられて、今度は講座でなくて独自の活動をされるようになったのではないかと。良いほうに捉えると、そのようなことも思っております。客観的なデータでのお話ができなくて申しわけございませんが、現段階では私としてはそのように考えてございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

ただいま教育長のほうから、個人的な御見解も含めて要因を分析をしていただいたわけでございます。私もいろいろと考えて、何でもこういことになっているのかなというのは、やはり社会の状況にもあるのかなと私も思います。いわゆるカルチャースクール流行りで、本当に民間の通信教育でも、あるところでは非常に魅力的な講座を次々と提供している中で、そことやはりこの町がやっている生涯学習というものをどう差別化していくのか。これは非常に悩ましいというか難しい課題であるということは、当然担当課の課長も重々承知されているかと思えます。

そういった意味でも、努力はされていると思います。努力はされているとは思いますが、もう少しやはり知恵を絞ることが私必要ではないのかなと思うところでございまして、そういった意味で、今回私が御提案を申し上げた、町民が主体となった組織、小田原市の取り組みを参考にして、ちょっとやり方を一つ切り口を変えてみる必要があるんじゃないかなということで御提案をさせていただいているところでございます。

一応、この質問項目に沿って再質問を加えさせていただきますけれども、まず1点目の生涯学習の充実につきまして、現時点で前期基本計画の施策展開を通じて見えてきた具体的課題、これをどう捉えて平成31年度からの後期基本計画にどう反映していくのかという私の投げかけに対して、課題としては町民の学習意欲の多様化、講座メニューを多様なものにしていくこと。そして様々な分野の人材というものを発掘すること、これが課題であるということで、おっしゃるとおりだと思います。

す。そして、課題解決のためにはということで、近隣市町とも連携していくという
ようなことを御答弁をいただいたわけですから、近隣市町との連携と
いうものを具体的に、もう少し分かりやすく補足説明していただけますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

開成町の生涯学習においては、先ほど御答弁させていただいたとおり、町民が主
体となって町民同士が教え合えるということを基軸にやっているわけなのですが、
状況によってはこういったニーズが住民、それから近隣の住民にとって、どういっ
たニーズがあってどういった講座が開催されているのかといったような連携の仕方、
それからどういった講座が広域的に活動しているのはあると思いますので、どう
いったような講座が実際行われていてというようなことも、ニーズと供給の部分で
情報を取りながら連携を図っていくということは解決策の一つというふうに考えて
ございます。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

分かりました。課題解決のための果たしてそれが決め手になるかなという、ち
ょっと説明聞いていると、ちょっとインパクトに欠けるなというのが正直な印象で
あります。やはり、もっと踏み込んだ取り組みというものをやっていかなければい
けないのかなというところが、私の今回の質問の趣旨でございます。

関連の質問でちょっと伺いたいのですけれども、総合計画についてちょっと伺い
たいと思います。この生涯学習の充実につきましては第五次開成町総合計画の前期
基本計画でもきっちりうたわれているところでございます。そして、その中で今回
まだ素案ではございますけれども、後期基本計画というものが事前に既に御提示を
いただいているわけでございます。その中で、私ちょっと気になるところがござい
まして、計画の目的を2点挙げているのは同じなのですが、前期基本計画の
生涯学習関連施設の充実というものを挙げているわけです。その中で、計画の内容
として最後のところに町民の学習ニーズや民間の生涯学習施設の状況を踏まえて、
快適な学習環境を提供するために、新たな生涯学習施設の整備を検討しますという
ふうに優先度は星印二つですけれども、挙げられているわけでございます。

これが今度、新しく後期基本計画の素案を見まして、生涯学習の推進のページを
見ますと、この新たな生涯学習施設の整備を検討しますという文言がごっそりなく
なっているのです。これは何を意味するのか、その点引っ掛かります。

確認なのですけれども、庁内でこの6年間、前期基本計画というものは推進され
てきたわけなのですけれども、新たな生涯学習施設の整備を検討しますというふうに書
いてありますけれども、6年間どんな検討をされたのかということと、そして今回

この整備を検討しますという文言がごっそり削除されているという、この意味合い。
これをちょっと御説明をいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

具体的には6年間という長いスパンの中でというふうでは、すみません、ちょっと昔のことは分かり切れてない部分があるのが正直なところではございますが、とかく生涯学習施設というと、定義的にはかなり広い定義になると思います。個別具体的にこういった施設をつくとかつくらないとか、そういった検討までは実際には行っておりません。

ただ、現実問題、今現在検討を進めておりますのは、町民センターのあり方については検討を進めてございます。こちら、新庁舎建設後に町民センターのあり方が大きく変わるといったこと。それからもともと前期の総合計画の中でサポートセンターのあり方等々もふれていた部分がございますので、そういったこともあわせて町民センターのあり方について、現在検討を進めている最中でございます。

後期のほうにそれが抜けているのはということでございますが、一旦検討については、この件については今年度中にある程度目安をつけて、それから31年度以降につきましては、具体的な実施の段階に入っていくというところで抜けているということで御理解いただければと思います。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

分かりました。というと、今後素案からは新たな生涯学習施設の整備を検討しますという文言がなくなりましたけれども、町民センターの今後のあり方の検討の中で、また議論を続けていくということで理解をいたしました。それはしっかりとこれからもハードの整備というのはすぐに結論が出せる問題ではないと思いますけれども、やはりしっかりとその中で議論をしていただきたい。決してこれは後期基本計画で後退したわけではないんだということを確認をさせていただきましたので、この質問は終わりたいと思います。

さて、2点目の生涯学習講座の運営主体につきまして、現在教育委員会が担っているけれども、小田原市のような組織を立ち上げて運営を委託したらどうかという、私の投げかけをさせていただきました。その中で御答弁いただいたのは、確かにそれは住民が主体となって講座を運営されることは理想ではあるけれども、それを生涯学習の運営全般について幅広く担う団体がなく、団体の発掘育成が課題であるというふうにはっきりと御答弁いただきました。まさにおっしゃるとおりでございますけれども、ここまでおっしゃってくださるのであれば、では具体的に次の一手というものを私は聞きたいのです、せっかく私聞いているわけですから。そのとこ

ろを具体的なアクションというものを私はとらなければいけないと思うわけでございます。

そういう意味で、私は今回小田原市の市役所の文化部の生涯学習課にヒアリングを今回させていただきました。どうして小田原市がこういった取り組みをすることができたのか、ヒントが何か得られないかなと思っていろいろ聞かせていただいたので、ちょっと簡単に御説明いたしますけれども、もともと小田原市はシルバー大学というものを運営されていたそうです。そこの受講者、あるいは卒業生の方々に市の生涯学習事業につきましてお手伝いしていただけませんかというところがスタートだそうです。そして、その中で、ただそうは言ってもなかなかすぐに生涯学習の運営主体にはなれないわけございまして、市としてはどうしたかといいますと、ボランティアがいるわけですが、この生涯学習の運営をお手伝いしてくれるボランティアを養成する講座というものを、平成１７年頃から開いて、生涯学習を応援してくれるというか、生涯学習をやれるような、運営できるようなボランティアを養成する講座を定期的にずっと開いてきたそうであります。

このけやきの会というのは、ＮＰＯになる前に平成１７年頃に設立をされて、ＮＰＯになるまで５年間かかっているのです。５年間かけて人材というものを育成しているわけでございます。私ちょっとお話を聞いていて印象的だったのが、いわゆる小田原市にも文化団体が種々あるわけですが、その方々には声はかけなかったそうです、あえて。やはりこの生涯学習の講座の運営企画というのは、やはり特別なスキルが必要になってまいりますので、それについては必要な講師の方を呼んでしっかりとした養成講座というものを何度も何度も開いて、そして今に至っているということでございます。もともとは言いはあれですが、素人の方ですからあれですが、今でもまだ完全に、まさに民間のやっているカルチャースクールのようなものは提供できているとはいいがたいけれども、やはり市民のニーズにあった様々な魅力的な講座を今提供できているというようなお話でございました。

やはり団体と団体のまさにパイプ役、そしてコーディネート、これは本当に繰り返しになりますけれども簡単に身につくものではございませんので、こういったものをして、核となる方々を養成して、そして平成２２年のＮＰＯ設立に至って、そして今に至っているということでございますので、まさに我が町も、とりあえずまず手始めとして、具体的な次の一手として、こういった生涯学習をボランティアで運営をお手伝いをしてくれる方々を養成する講座というものをやってみたらどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問、御意見、ありがとうございます。一つは、小田原市がどのようにやっているかということ、あるいは小田原市以外でもそのような実践例がある

やもしれませんので、今後しばらく研究をさせていただきたいというふうには思っています。

本町の先ほどもお話した循環型の生涯学習ということでは、ジュニアリーダーズキャンプなども行っていて、リーダーを育てるということは青少年育成会のほうでも行っていております。先ほど、先月末ですか、瀬戸屋敷で一泊二日でもそのような会がございましたが、何と高校生が小学校時代にお世話になったということで、高校3年生あたりがお手伝いに来ているような実態もございましたので、これも一つの開成町らしい循環型の異年齢がうまく回る一つの取り組みになってはいるのかなという実感をもったところです。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

生涯学習の取り組みというのは、もちろん子どもから高齢者までですが、私はどちらかというと高齢者向けの、いわゆる生涯学習講座の充実という観点からちょっと質問させていただいておりますので御理解いただきたいと思います。

そういったわけで、今のもちろん小田原市のまねをしろとは言いませんけれども、やはりいろいろ東京のほうを見れば、もう生涯学習事業をもう民間のカルチャースクールに完全に委託してやっているところもたくさんあります。それでは私は意味がないと思うのです、やっぱり。そういう意味で、私は本当に灯台下暗しで調べたら、すぐお隣の小田原市で、こういう非常に先進的な取り組みをされていて、かつ我が町にもマッチングするような取り組みだなと私しみじみとヒアリングをしても感じました。

ぜひ、調査研究していくというふうにおっしゃってくださいましたので、ぜひこれは、それこそ長い時間をかけてまず人材を養成しなければいけませんから、長い期間、まさに長いスパンで見なければいけない取り組みになってきますので、ぜひこれはひとつ総合計画後期基本計画の中にも、少しそういったところも検討するという文言をぜひ加えていただけたらなと思うところであります。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えいたします。

今の御提案、非常に素晴らしいというふうに思っておりまして、私どももできる限りそういったことの取り組みを進めていきたいという気持ちもあるのですが、ただ現実問題、人口規模が開成町と比べて10倍以上ある小田原市でできることと、開成町でできることというのはおのずと差があるのかなというふうに思っております。

開成町といたしましては、できるだけ規模が小さいということを生かしながら、

町民同士で身近にできるようなことをしっかりとやっていくというのを、まずは原点に置きながら、そうは言ってもいろいろな需要に対応していくためには、今、議員の御提案にあったような方法も視野に入れながら検討を進めてまいりたいと思っております。

それから後期の計画の件なのですけれども、一応ちょっと今1点大きく変更するようなことを考えてございます。内容的にはこれから内容を調整してまいりますのですが、目標とする指標の部分でございます。前期の計画においては、生涯学習講座の受講者数年間を平成30年度には1,100人を目指すのだというのを指標としてございます。これについては、参加者数の積み上げでございますので、数多くやったり、もちろん魅力的な講座をやって人が集まれば、人数は増えていくわけなのですが、そもそもやり方として適性なのかどうかということの検証をきちっとしていかうというふうに今考えてございまして、一つはアンケート、今現在アンケートも講座が終わった段階で参加者にとっているのですが、満足度といったものの観点でのアンケートは取っていないという状況がございまして、今後アンケートの中身を十分工夫して、満足度というものをしっかりと捉えて、実施した結果、その講座が有効だったのかどうかということの一つ指標として捉えて、今度の後期の計画の中では、その満足度といった観点で指標を設定してまいりたいと現在は考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

分かりました。そういった満足度、受講された方の満足度というのも一つこの生涯学習講座の一つの判断指標になってくると思いますし、あまりこういうことを言いたくありませんけれども、相応の税金をかけてこれやっているわけですから、費用対効果というものをやはり無視するわけにはいきませんので、ぜひ私が今回提案したことも含めて検討いただきたい。特に視点を変えれば、これは行革の観点からも事業の見直しという意味では、教育委員会の担っていることをNPOに委託するという意味で、行革にも資する取り組みになるかと思っておりますので、そういったことも合わせて、これは非常に検討に値するものだと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

最後になりますけれども、3点目の町民センター図書室を町立図書館として開成駅前新たに整備して、生涯学習の拠点とする考えはありませんかという投げかけをさせていただいたところでございます。

軽く一蹴されたなという感じはいたしますけれども、これまで私ちょっといろいろ過去の議事録を拝見しますと、決して私だけが今回取り上げたわけではなくて、これまでも多くの議員が町立図書館つくってよという質問をされているのですよね。これはやはり町民の方の要望が強い一つの項目なのかなと、私改めて思いました。

そういう意味で、庁内で町立図書館の建設について具体的にこれまでどういった、議員からの投げかけに関して、どういった検討をされたのか、それをちょっと説明していただけますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えいたします。

開成町におきましては、昭和60年に町民センターができたときに、図書室ということで今現在の運営をしております。図書館の建設のお話、御要望については、折々の機会にそういった声があるのも承知をしております。ただ具体的に、インシャルコスト、ランニングコストがかかるといった点から、どこにどういうふうにといったまでの検討は今現在進んでない状況ではございますが、ただ、ソフト面においてきちっと住民の利便性に応えていこうということで、段階を踏みながら広域利用ということで近隣にもすばらしい図書館がございますので、そちらも利用できたり、それから開成町の図書室にない本もお客様のリクエストに応じて手配できるような体制をとってきたといったようなことでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

それはソフト面の対応ということで、この県西地域2市8町、秦野市との図書館の協力をしてやっているというのは、それはそれでよろしいかと思うのですけれども、ちなみに今、町民センター図書室を利用されている方々の、いろんなお子さんもおられるだろうし、学生さんもおられるだろうし、高齢者の方もおられると思うのですけれども、利用者の方々の声、これを聞いたことがあるのか。聞いたことがあるとすれば、どういった声があるのか、それを差し支えない範囲で、今急に私の質問で手元にないかもしれませんが、ちょっと答えられる範囲でお答えいただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えいたします。

具体的に、声といったことまで教育委員会のほうでは届いてないというのが実情ではございますが、ただ、ホームページ上で蔵書検索ができたりですとか、それから先ほど申し上げたリクエストができたりということの中で、そんなに御不便はおかけしていないのかなという結果で、特段意見はいただいてないのかなと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

石田議員。

○5番（石田史行）

特段不便は感じてないというようなお声を聞いているということであるならば、それはもうこれ以上私が言ってもむだな感じになってしまいますので、今回、後日また同僚議員がこの町立図書館につきまして、しっかりと熱弁を振るわれると思いますので、そこに譲りたいと思いますけれども、私もいろいろこの周辺を見渡してみても、確かに大井町、そして松田町みたいに町立図書館をつくっているところがあれば、山北町、中井町みたいに、生涯学習センターの一室の中に図書室という形でやっているところもありますから、一概に、じゃあ町立図書館つくれというふうな話には確かなかなか、それは町の生涯学習に対する考え方といいますか、図書館に対する考え方ですよね。それによって違ってくるかと思いますので、一概には論じることは難しいのかもしれない。だけど、私はやっぱり町民の代表として、やはり今の図書室、何とかちょっとというのは正直私はいただいているのです。

ですから、これはやはり今回の後期基本計画の素案の中で図書室の記載がございます。生涯学習の中で、図書室の機能の充実を図ります、優先度三ツ星ということでもありますけれども、やはり当然課題としては認識はされているということでもありますけれども、何とか図書館への、すぐにはできないと思いますけれども、長いスパンで、決して町有地がないわけではありませんから、ですからやっぱりそこを遊ばせておくのはちょっと問題かと思いますが、やはりそういったところの土地がないわけではないですから、町の。

そういったところも含めて、やはり今ツタヤ図書館といって、民間の力を使って町の持ち出しを減らして図書館をつくっている、海老名市なんかも進めているのも御存知だと思いますけれども、そういったところも考えれば、決してイニシャルコスト的にはちょっと難しいんですよという話じゃないと思うのです。その辺はやはりきっちりと図書館のことも、これは町民の意見としてしっかりと受け止めていただきたいと、お願い申し上げて、ではせっかくですから、町長一言もし何か、私の意見を聞いて何か感じるものがあれば、一言もしいただければお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今回、総合計画の見直しの中でいろいろな皆さんと意見交換をさせていただきました。かつ、いろいろな町民アンケートも取らせていただく中で、図書室、図書館に関するものの要望というのはすごく多くあったなという認識を持っています。

今回の今言われたように、総合計画の中の素案の中にも図書室の充実というのは入れさせてもらっていますけれども、図書館でなくて図書室ではいけないのかという、いろいろな考え方があると思うのですけれども、形ではなくてやはり実質的な実が大事だと思いますので、今ある図書室をさらに充実するということは、新庁舎

ができ上がりますれば、こちらに教育委員会ほか福祉課、みんな移りますので、本来、保健センター、町民センターという機能の中で、それは改修をしてきたいと思っておりますので、それは長期的な話ではなくて、全部移れば町民センターの中にサポートセンターも今検討しておりますけれども、図書室も合わせて再整備をしていくということは、すごく大事だと思う。

今ある図書室をさらに今の整備だけではなくて、今年、北海道にちょっと上郡町村会で研修に行かせていただいたときも、それは拠点として一つあって、その周りに町内に様々なお店やお医者さんや、そういうところにそれぞれの中の本がたくさん用意してあるところもあるので、そういうところとうまく組み合わせながら、町内にも小さなミニ図書館があるような、そのような位置付けの中で、図書室は拠点として周りにサテライトとして、そのようなやり方もちょっと研修の中で見てきた部分がありますので、うまく機能するということはすごく大事だと思いますので、充実した図書室に改修はしていきたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

これで、石田議員の一般質問を終了いたします。

それでは本日本日の一般質問は、全て終了いたしましたので、これにて散会いたします。明日も一般質問を行いますので、よろしくお願いいたします。お疲れさまでした。

午後 4 時 2 0 分 散会